

## 個別支援計画向上委員会

【目的】 利用者の思いに寄り添いエンパワーメントを引き出す個別支援計画の在り方、支援の在り方を学習し、個別支援計画の質の向上を図る。

【活動予定】 ①個別ケースを用いた個別支援計画の作成演習（グループワーク）  
②個別支援計画に係る外部研修等への参加  
③その他、個別支援計画に係る学習

【委員構成】 飯野 雄大（麦のゆめ）  
櫻井 清美（ワークハウスみやま）  
栗田 恵子（キッチンハウスみやま）  
森 隆子（みやま工房）  
芦川 香織（ハーモニーやまなみ）



左から 飯野、栗田、森、芦川、櫻井

【抱負】 ・「利用者がもらって嬉しい支援計画」を目指して取組んでいきたい。（飯野）  
・皆さんと意見を共有し、良い支援計画を作成したいと思います。（櫻井）  
・利用者も職員も「ワクワクするような支援計画」を作る事を目標にしていきたい。（栗田）  
・支援に正解は無いといろいろ試行錯誤し、良い支援ができるように尽力します。（芦川）  
・新入職員の森です。皆さまに指導してもらいながら、頑張ります！（森）

## 委員会レポート(どんなことやっているのかな?)

【個別支援計画のステップアップ】

障害者自立支援法(現障害者総合支援法)は、身体障害、知的障害、精神障害などの障害の種類に係わらず、共通した福祉サービスを共通の制度により提供することで障害者の自立支援を目指す法律として平成17年に制定されました。その特徴は、先に介護福祉サービスにて導入されていたケアマネジャーによるケアプランに基づくサービス提供と同様に、サービス管理責任者による個別支援計画に基づくサービス提供の仕組みです。

当初、先行する制度を現場が追いかけるという状況であり、当法人では個別支援計画の立案プロセスの統一化、書式や文言の統一など、その形式作りに職員の労力が注がれてきました。「個別支援計画向上委員会」の前身となる「支援者連絡会」において、各事業所のサービス管理責任者が中心となり、当法人の各事業所間の情報共有を行い、個別支援計画のベースを作ってきました。

しかし、そろそろ当法人の個別支援計画もステップアップを目指す時期にきたと考え、今年度より「個別支援計画向上委員会」と名を変え活動を始めました。

そもそも、「個別支援計画って何?」、「誰のために、何の目的で作っているの?」、「個別支援計画で利用者さんの生活・人生はどう変わるのか?」、そんな疑問を改めて自分達に問いかけ、「個別支援計画の中身、質」を向上させたいと思います。

【演習会の実施】

定期的に委員である各事業所のサービス管理責任者が事例を持ちより、個別支援計画作成の演習を行います。「利用者さんのニーズに対し、利用者さんのストレンクス(強み)を見出し、どうエンパワーメントに繋げ、支援者は何ができるのか、どう支援して行くのか」、そんな視点で演習を行います。そして、「利用者さんが希望や夢を持てる個別支援計画」を目指します。

## ピアサポート WG

【目的】 (1) 当事者グループ「ホープ・オブ・ハート」の活動サポート  
(2) ピアサポーターの活動サポート

【活動予定】 (1) 当事者活動「ホープ・オブ・ハート」  
・定例ミーティングの開催（土曜日・休日に開催予定）  
・会報誌の発行 季刊誌的に定期発行が目標  
・イベントの開催 「幻聴・妄想体験を語る会」など  
(2) ピアサポーターの活動サポート  
・病院交流会 榛名病院：全体交流会 1回/月  
田中病院：2回/月 文化祭等の病院イベントにも参加  
・北毛ピアの会：1回/月  
・ピアサポーター養成活動：ピアサポーター養成講座（当事者）  
スーパーバイズ研修（ピアサポーター）  
ネットワーク構築研修（職員）  
(3) その他  
・「ピアトリカバリーを考える」への参加（群馬県精神障害者地域移行支援事業）  
・「こころのふれあいバザー展」への参加（主催 群馬県精神保健福祉協会他）

【委員構成】 村岡 佑一（キッチンハウスみやま）  
飯野 雄大（麦のゆめ）  
峰岸 千絵（麦のゆめ）  
須貝 実菜（みやま工房）  
森 隆子（みやま工房）  
木村 里紗（ワークハウスみやま）  
田代 尚美（ハーモニーやまなみ）



左から、森、木村、須貝、村岡、田代、飯野、峰岸

【抱負】 ・ピアサポーターや当事者の人たちが色々な場所で活躍できるようやっていきたい。（村岡）  
・上半期はコロナの影響でほとんど活動が出来なかったもので、下半期はガンガン活動していきたいです。（飯野）  
・「なんだかんだで、元気になれる場所」そんな空間・仲間づくりをしていきたいです。（峰岸）  
・たくさんの人が活躍できる場を作っていくと共にピアさんのケアも出来るように頑張りたいと思います。（須貝）  
・日々勉強、日々成長、出来るようピアのみなさんと一緒に活動していきます。（木村）  
・8月からピア委員会の一員としてよろしくお願ひします。分かち合い、分かり合い笑顔で楽しく過ごせるように活動サポートしたいと思ひます。（田代）  
・新入職員の森です。統合失調症当事者の社会福祉士です。支援する、されるの関係でなく、お互いに学び合えるような活動をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。（森）

## 9月26日(土)「幻聴・妄想体験を語る会」

11:00~14:00

ピア活動グループ「ホープ・オブ・ハート」が企画運営して行います！

【募集人数】15名まで(先着順)

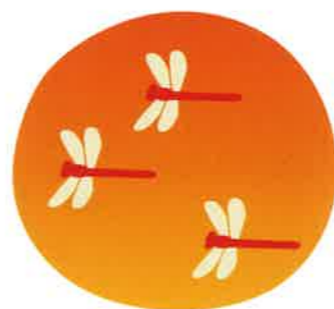
【会場】キッチンハウスみやま

【申込み】麦のゆめ 飯野まで TEL0279-25-8866

## 【絵画教室】

9月の絵画教室はお休みです。

コロナウイルス感染拡大を受け、密閉・密集・密接を避けた対応が必要と判断しました。安心してまた絵画教室が開催できるようになりましたらご案内致します。



## 新年度(令和2年)度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

## 山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発行 特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 繁男

住所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2(みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：[rep@npo-yamanami.jp](mailto:rep@npo-yamanami.jp)

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」

就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」

多機能型事業所(就労継続支援A型・B型)「キッチンハウスみやま」

多機能型事業所(生活訓練・就労移行支援)「ワークハウスみやま」

グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・4号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

## 再び、新型コロナウイルスの感染拡大、第2波の恐れ！

5月の大型連休を前に全国に発令された「緊急事態宣言」が解かれ、その後、経済活動が再開する中、都心部を中心として繁華街にも人が戻り始め、更に国も観光需要の拡大を狙って「Go To Travel キャンペーン」を実施する中、県境を越えた人の往来も盛んになりました。

しかし、経済活動の再開と共に、この夏、再び、感染が拡大しています。その数字を見る限りは、春先の第1派を上回るスピードで拡大しており、まさに第2波が既に押し寄せていると感じます。

そして、未だに決定的な治療法が確立されていない状況に於いて、予防が唯一の対策となります。

当法人としては、今一度、この事態を重く受け止め、「絶対にコロナウイルスを持ち込まない、持ち出さない」を合言葉に、職員が一丸となり、以下の点を遵守し、新型コロナウイルスの感染予防に取り組んでいきます。

## 特定非営利活動法人山脈の新型コロナウイルス感染予防対策！

### ●ひとりひとりができること

新型コロナウイルスに感染しないため、下記の点について徹底します。

- (1) 手洗いの励行、マスクの着用
- (2) 毎日の検温等の体調確認
- (3) 不要不急の外出、また、県を越えての移動を控える(特に首都圏・観光地等への移動)
- (4) 密閉、密集、密接な場所を避けた行動(飲み会、イベント、接待を伴う飲食等)

### ●職場で取り組むこと

新型コロナウイルスを職場内に持ち込まないため、下記の点について徹底します。

- (1) 時間を決め、小まめな換気(1時間に1回、担当を決め、声を掛けあって)
- (2) ドアノブなど、不特定の人が触れる場所の消毒(担当を決め、徹底)
- (3) 職場での検温・記録、外出から戻った際の消毒(外来者も含む)
- (4) 人と人との間の距離をなるべく確保する(ソーシャルディスタンスの確保)

(多数が集まる会議、職員研修、職員交流や新年会などイベントの開催については慎重に対応します)

## コロナウイルス禍におけるイベントの模索

新型コロナウイルスの感染拡大以降、多くのイベントが軒並み中止になりました。パンやお菓子などの自主製品を扱っている就労支援施設にとってイベントは、とても重要な販売活動です。しかし、今後も大勢の人を集めて行うイベントは、3密の回避の点において、開催は難しいと思います。

そこで、ネット上で仮想イベントや仮想マルシェなど、新しいイベントの形を模索していく必要があると思います。そして、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した時に、そのような新しいイベントの形態、新しい販売活動として定着して欲しいと思います。

